

ヨーカ堂が閉店した翌日と翌々日の午後、私はカメラを持って行ってみました。

人通りは全くなく、車が2台停車しているだけでした。この光景に私は立ちすくみ、会頭としてこの重大さにあらためて責任を痛感しました。

今まで論議したことはすべてヨーカ堂の撤退後1、2年後に再開される三井物産へ要望対策に終始してきたことでした。本当は閉店した次の日から、坂田商店会、駅前商店街はどうすべきか、なぜ「にぎわい市」を頑張ってきたのか。欠落していた自己の先見性に痛烈な挫折感を感じ、暗い気持ちで帰りました。

三井物産の再開は、これから早くて1年、遅ければ3、4年かかるでしょう。それでは駅前北口商店街はゴースタウン化してしまうのではないだろうか。

間もなく(仮称)中野大橋が架かり、東からは小糸・清和方面、南から佐貫・大貫・飯野方面、西からは亀橋を渡って富津・大貫へ抜ける導入路は、凡そ5、6万人の商圈が拡大する絶好のチャンスが到来するという時に、中心部の一つの街が消えて行くのかと思うと暗澹たる思いであります。

もし、このまま来年の秋、木更津・築地地区に大商業地が生まれたら、西坂田・君津台・陽光台・畑沢南の消費者は今までの南から北へとすべての流れを変えてしまうでしょう。折角の中野大橋を通過する人達もまた、この地に一瞥もせず通過をして行くのかも知れません。

この駅前の商店街をつぶしてしまったら、会議所・商店会の存在価値を失ってしまうのではなからうかと思っています。

まだ遅くはありません。商いとは所詮自分しか頼るものはないかもしれませんが、時の動きを早く気づき、苦しい時には小さな者達が力をあわせることです。一番危険なことはあきらめ、坐視することです。どうか、もっとお得意先に足を運んで下さい。御用聞きをして下さい。そして宅配して下さい。飲食店はもっと愛想をよくして下さい。おいしい物を提供するよりも、おいしく食べる雰囲気を提供して下さい。店の奥に座っていないで町内にもっと足を運び時代の流れ、環境変化を把握して下さい。スーパーが苦戦し、生協が盛況となっている事が何よりの証明であります。

新日鐵の三村社長の新年の辞に「これからは光と影の時代になるでしょう」とありました。諦め立ち止まるのではなく、「文殊の知恵」を出しあって下さい。「今からでは遅い」ではありません。気が付いたらすぐに行動することが大切です。光の当たる道や場所がきっとあるはずです。日陰を歩かないで下さい。なぜなら日陰はモノが成長しないからです。